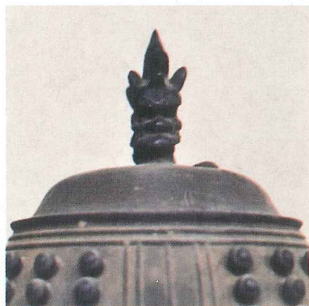


元禄二年銘半鐘



竜頭



撞座

〔指定年月日〕平成二年三月三十一日
 〔種別〕有形文化財（工芸品）
 〔名称〕元禄二年銘半鐘
 〔点数〕一口
 〔所有者等〕東運寺
 〔所在地等〕方南二―五―四

元禄二年銘半鐘

本資料は、通形の梵鐘で口径二尺に満たないので半鐘と呼称されるものである。

製作年代及び作者は、半鐘の銘により元禄二年（一六八九）に田中丹波守藤原重行が製作者であることが解る。

総高は五八・五cm、口径は三三・〇cm、重量は二五・〇kgを測り、鑄銅製である。

竜頭は双頭を背合わせとし、中央に蓮華座をもつ宝珠を配している。笠形は、甲盛りが高く饅頭形である。竜頭の脇には、長方形の湯口が一個あり、四方には型持ちの跡が見られる。

池の間四区には、この鐘を東運寺に寄進した由来等が毛彫りで鮮明に刻されている。

この半鐘は、第二次世界大戦時に供出させられ、戦後しばらく世田谷区内で火の見櫓に懸けられていたが、その後本寺に返納されたものである。全体的に銅鑄に包まれており、池の間に若干亀裂が見られるものの、完形を保っている。

杉並区内に所在する梵鐘の中では、最も古い年記を持つものであり、銘文により東運寺の古歴を示す貴重な史料である。また、江戸の鑄物師である田中丹波守藤原重行の作品としても資料的な価値が高いものである。

【文化財所在地】

